

「平成 23 年度 第 5 回水戸市環境フォーラム開催」

立春を迎えたばかりの2月5日（日）、水戸市国際交流センターに於いて、第5回水戸市環境フォーラムを開催しました。

昨年の東日本大震災により被った、福島第一原子力発電所の放射線災害は、東日本ばかりでなく国全体に大きな被害を及ぼしました。先の見えない放射能の影響は多くの問題を提起しています。今回の環境フォーラムは、水戸市民が今抱えている現状を受け止め、どう対処すればいいかを、市民、行政がともに考える機会としました。間にコーヒータイムを挟みながら、時間の経つのも忘れて熱心に討議が行われました。概要は以下の通りです。

【コーディネーター】

浜田篤信さん

私はこの会の会員ですが、日頃は霞ヶ浦で活動をしています。その関係で、現在は涸沼に取り組んでいます。今日のテーマである放射能のコーディネートはちょっと重い内容ですが、いろいろ討論していただきこのフォーラムにより何らかの光が見えればいいと思います。

【パネリスト】

高橋正道さん

私は原子力は全くど素人です。私は創業 50 年の「青柳工業株式会社」に勤めておりまして、停電した時などのバックアップ電源を作っている会社です。その品質管理の事務局をしています。環境マネジメント・衛生管理をしながら会社の社会貢献度を上げるための仕事をしています。原発事故の後、秋葉原で3万9千円で買った放射線測定器を2台もって比較しながら、水戸市の各地の放射能を測定してみました。気になる那珂川・沢渡川、森林公園やその他お子さんの集まる公園を計測しましたが、大体のところ0.16 から0.20 で人体への影響があるのかどうか議論するところです。産業廃棄物の捨て場になっている個所が気になって測って見ましたが、大した差はありませんでした。田野野球場が1番高かったように思います。水戸市のHPに載っているものと大した差はありませんでした。

将来のある子どもたちには、一定量の線量を浴びると、色が変わる簡易測定カードを持たせてもいいのではないかと思います。心配して子どもを外で遊ばせない方がむしろリスクが大きい。お母さんたちに数値を示して、安心させてあげる事が私たちの活動の意味があると思います。いろんな方の話を聞いたらよいと思います。最終的には個人のリスク管理、女性の乳がんなどの健康診断が大切だと思います。

会場：テレビで放映していましたが、放射能が動き出しているということです。降った放射能が地に落ちて水に溶け川に流れ出しやがて、湖や沼に溜まり、そのプランクトンを魚が食べ、それを人間が食べるその影響はどうなのでしょう。

コ：その核心のお話は後で討論いたしましょう。

西原昇治さん

環境保全会議事務局をしている西原です。私は日頃物事を観察する時、点として捉えるのではなく、点と点をつなげて面として捉え、次元を加えていくというような取り組み方をしています。今回の原発事故でも、発生当時から新聞の切り抜き時系列に追っかけて、政府の対処を見守って来ました。市内各地で測定した数値をデータ化し、グラフにしてその動向を探ってみました。東野の水戸の水ガメといわれるところ、森林公園の雑木林・千波湖斜面と桜川、逆川の水辺、さらには那珂川（万代橋周辺）河川敷、住宅地、児童公園、畑地など10か所を計測しました。（放射線量のグラフの説明）

確かに事故後の5月以降は、線量の数値も落ち着いてきています。大きな樹木の下や、雨水が1か所に集まる雨どいの下にホットスポットが見られますが、地上1メートルの高さになると、平常値0.2~0.3という数値が示されました。特に浸透しないコンクリートの川の斜面や舗装道路では高い数値が占められますが、地上1メートルになると0.2が示されます。

先ほど会場からの質問で、今後川に溜まった汚泥が、やがて湖や海に流れた込み、生き物に害が及び、やがて子どもたちの健康に影響を及ぼすのではないかと心配の声がありましたが、確かにわが県の1/3の面積を占める霞ヶ浦は、流入する56か所の河川からの汚染された土砂が堆積し、今後数十年に亘り影響を受けると思われますので、国の責任で追跡調査をし、県としても監視をしていく必要があると思います。

坪 正敏さん（農業生産者）

私は東海村の農業生産者の立場からお話致します。これまでに3回の原子力による被害を被ってきました。農業にとって大切なのは土壌ですが、汚染された土の除染をどうするか。今、原子力開発機構と各大学の研究機関で土壌の除染の共同研究をしています。除染という言葉はイメージが強いのので使いたくないのですが、もうひとつ農産物にとって大事なものは水です。放射能に汚染された山の木々の落ち葉が腐って水に溶けだし川に流れこむ。山間地帯ではその水を引いてコメを作っています。今までは美味しい米だったものが、怖い米になってしまうのです。



水をどうするかがこれからの大きな課題になって来ます。田んぼに取り入れる水をどの時点でどう除染するか、あるいは、放射能に強い品種を改良する方法を協同で取り組んでいるところです。

将来のある子どもたちのためにも、生産者は美味しい安全な食物を届けるために、皆さんと一緒に勉強していきたいと思えます。

萩野谷成子さん（薬剤師）

私は薬剤師で公衆衛生検査センターで仕事をしています。仕事の内容は皆様に依頼された検体を早く正確にデータを取り、結果が適合するか否かを調べ報告する仕事です。今日は私たちの仕事を理解していただくためにも、ご依頼をお受けしました。



検査するものは、生活に欠かせない水、食品、（米や野菜）医薬品、など生活環境に関わるすべてのものです。このたびの放射能の中には、自然放射能や、人体にある炭素やカリウムそのものが放射能物質を持っています。（7000ベクレル）玉川温泉のように、身体に効くと言われているラジウム温泉などもそうです。セシウムは金属性なので、危険性を持っています。（放射能の特性と計測の方法、計測器の違いなどの説明があった）

要するに、基準値の決め方は、その値を越えたらダメではなく、そこまでだったら大丈夫という、対応が整わないと公表できない国の事情があります。昨日までの基準値が、500ミリシーベルト以下だったものが、明日から急に100ミリシーベルト（乳児に関するものは50ミリシーベルト）に変わるというのは、人々に不信感を抱かせる原因になり、風評被害に繋がる恐れがあります。放射能対策としては、同じものを食べないようにし、いろいろなものを幅広く摂るようにすることです。

私たちが検査結果は、依頼した人に公表するようにお願いしています。隠すことによって風評被害が起こります。事実は事実として公表し、対策を考えなければなりません。野菜などはきちんと洗ったり、茹でたりすることで落とせます。私は給食などの丸ごと検査をすべきだと思います。県内でも数か所やっている所がありますが、あまり進んでいません。

放射線被害は土に始まって米・稲わら・牛乳・肥料・木・落ち葉・灰や炭・今は建材と繋がって来ました。どこまで繋がるか予想もつきません。

私たちはこれからも一生懸命に、検査をしてきちんとしたデータを出すことが第一、と思っています。

~~~~~  
10分間のコーヒープレイク（提供：雲井建設：井戸ライフ：青柳工業）協力 サザコーヒー



質疑応答



コ：私たち消費者と生産者がどう関わっていくか。をご一緒に考えて行きたいと思います。

質問のある方は挙手をして、お名前を述べて下さい。

会場から：学校の線量測定について、いろいろ伺っていますが、例えば、じめじめしているところや、雨どいが切れて途中から雨水が流れ出しているところとかはどうでしょうか。学校での測定状況をお聴きしたいです。

水戸市：5月から小学校・幼稚園・保育園を測定しています。その施設の状況に応じて5か所を測定し、その平均値を公表しています。雨どいの下とか、水のたまりやすい場所につきましては、国の基準に従って測っています。局所的に高い数値を示した場所については、土を取り除くなどして除染をしています。

会場：5か所の平均値がいくらではなく、どことどの数値が高いということを知らせるべきではないかと思います。

コ：それは市民側から要請する必要がありますね。

消費者と生産者との関係をどうすればよいか、また行政に何を要望すればよいか、それぞれの立場で議論しましょう。

坏：農家は苦しんでいます。次の作物を作るべきか否か迷っています。行政が動くのではなく、住民がいろんな大学や研究機関に働きかけ、共同研究をしながら、そのデータを基に新しい技術の開発につなげる、それは少なくとも3年、あるいは10年かかるかもしれない。皆さんは、栄養士の方が言われるように、偏らず食べ物のバランスを考えて、摂るようにすることです。

会場から：残念なことですが、地元の野菜や魚は使っていないという情けない声を耳にします。ほうれん草の数値が高いとか、アイナメが基準値を超えたとマスコミが取り上げると、消費者は何を食べたらいいのか不安になり、食物を制限したり、外食を避けたりします。萩野谷先生にお聞きしたいのですが、内部被ばくを避けるため、野菜は洗って皮をむく、魚は塩水で洗うと聞きましたが、何%の塩水が良いのでしょうか。また回遊魚は良いが深海魚は避けた方がいいと聞きましたが。

萩野谷：茨城県は水産県なので、一時シラス、コウナゴが出ましたが、塩水の浸透圧で抜けるというのは、聞いたことがないので何とも言えません。ただ今のところ高くはないですが、アイナメやドンコなどの魚はどうなるか分かりません。

会場から：私はJA いばらきで県の農産物の開発をしておりまして、サトイモのガラクトンという成分が、子どもの脳の活性化や痴ほう症予防に良いということ茨城県産は敬遠され、今は宮崎県産のものを使っています。

会場：一番気になるのは子どもです。消費者は馬鹿じゃない。きちんとしたデータを出してくださり、いろんな情報を報告してもらいたいと思います。

コ：きちんと評価をすることが大事ですね。これから私たちはどうすればいいのでしょうか。

西原：各人のデータを持ち寄り、高い数値のホットスポットを少なくしていく。除染した土はどこへ持っていくかということになりますが、土の一番深いところへ穴を掘って埋める、水の流れてくる低所のデータを集め、公表して皆で共有する。行政に相談して対策を考えるという事でしょうか。食物はレベルの低いものを選んで食べさせて行く。

萩野谷：今日のこのような場所は必要だと思います。いろいろなデータを持ち寄り、危ないものはそれなりに対応して出来るだけ県産物を食べたいと思います。

会場：どのくらいの線量を浴びているかという線量計を子どもたちに与えてくれると、ホットスポットを測るよりトータルの被ばく量を測る事を提案するのが良いと思います。

会場：無防備でウォーキングをしています。自転車通学の子なども大丈夫でしょうか。微量でも浴びないような対策、マスクをしたり、顔や身体についたものを落としたりした方がいいのでしょうか。セシウムが土面より舗装面に多いというデータは不思議に思いました。

西原：セシウムは真っ平らな水戸の大地に均一に降っと思います。土に落ちたものは地下に浸みこみますが、舗装面にくっついたものが、車について移動しますので高く出ます。大木の根本などは雨と一緒に落ちてきます。根本は地面は高い数値でも地上1メートルの空間線量は殆ど出ません。ウォーキングで踏みつけたとしても大したことはないと思います。(マッチの火は近づければやけどするが、1メートル離れるとやけどしないという例)

会場：花粉症に近いと言いますが、どう対応すればいいかわかりません。

高橋：この場でどうすればよいという事は申せません。これは積算カードです。4000 円くらいで売っています。心配ならこういうものを持ったり、健康診断を受けるなどして自己防衛する、ご自身の冷静な目で対応していただければよいと思います。

会場：今日の放射線の影響と私たちの活動というお話は、私たちが危機感の共有、責任の共有、希望の共有が出来たと思います。まだまだ解決はできませんが希望を持って皆さん頑張ってください。以前トリハロメタンで多くの人がガンに冒された亡くなったというアメリカの情報がありましたが、いち早く日本の企業が取り組み、ろ過してトリハロメタンを除去する装置を開発したと聞いています。放射能を取り除く装置がもう国内で出来ているのではないか、分かっていたら教えてもらいたいのですが。次回にそういうことが話し合えたらいいと思います。

西原：装置といってもセシウムは粘土に吸着します。なんと茨城の大地は粘土が豊富で粘土と、その下にはゼットライトという吸着しやすい層があります。セシウムはこの土に吸着して 30 年～100 年を経過すると思います。要するに自然の浄化に任せた方がいいと私は思います。緊急事態としては霞ヶ浦ですが、河口にこの粘土を持っていき吸着させてそれを除去する、などの方法が良いと思います。

萩野谷：地下水は粘土でろ過されます。現在水道水の原水には出ておりません。地震の後大雨が何回も降りましたが、市町村で調べたのですが出ていませんので源水は心配ないと思いますが、今後の監視は必要と思います。個人では良い活性炭などをきちんと使えば取れますがそれにはお金がかかります。

コ：時間が 30 分経過してしまいました。最初のご質問にお答えできませんでしたが、次回にまた話し合いたいと思います。また参加してください。皆さんで社会を動かして行きましょう。

川原井：長時間にわたり大変熱心にご議論いただき有難うございました。この放射能は先の見えないの問題です。私たちはいろいろな話を聴いて、個人の知識を持つことが大切だと思います。これからも一緒に取り組んで行きたいと思います。これを持ちまして閉会と致します。お疲れさまでした。

パネリストの4人方々



コーディネーター 浜田さん



※ コ：コーディネーター